パオちゃん's EYE👀

2021年4月1日 発行 No.49

めのう

地球の深さ数～40km程度の浅い部分は地殻といい，酸素（O）が46.4%を占め，次いでケイ素（Si）が多く28.2%を占め，石英のような二酸化ケイ素（SiO_2）の鉱物がしばしば見られます。今回紹介する，めのうは，非常に細かい石英の粒が集合しているもので，宝石に用いられます。

通常の石英は，キラキラとガラス光沢があり透明でもろく，花こう岩や流紋岩などに粒状で含まれ，それらは高温のマグマが冷えて固まってできることが多いです。めのうは1μm（1／1000mm）程度の非常に細かい石英粒子が集合したもので，脂肪のような鈍い光沢があり半透明で，地下の熱水という100℃を超えるような高温の水に溶けているケイ酸分が急激に沈殿（ちんでん）してでき，白いもののほか，微量の鉄分などの不純物を含み，淡黄～紅色・褐色・灰色などのものがあります。しばしばケイ酸分が沈殿した層が，しま模様をなしています。また，樹枝状の緑泥石や二酸化マンガンが入っているものは苔（こけ）めのうと呼ばれています。

めのうには光学顕微鏡で見てもわからないような細かいあながあり，白っぽいものに人工的に染料をしみこませて，さまざまな色に着色することができます。また，磨耗しにくいので，宝石以外では乳鉢や砥石などにも用いられます。

世界的にはブラジル・メキシコ・アルゼンチン・ドイツ・イギリスなどで多産し，日本では日本海側や伊豆半島などの火山帯によく産します。堅いので，河川や海浜では丸く磨かれた数ｃｍ以下のれきとして見つかることがあります。

めのう製の遺物は世界各地の古代の遺跡から多く見つかっており，めのうも水晶などとともに古くから装飾品などとして用いられたことがわかっています。

武智泰史（地学担当）

パオちゃんズアイ👀に関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046　岡山県倉敷市中央２－６－１

電話:(086)425-6037　FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろんな情報がいっぱい♪
『倉敷市立自然史博物館』で
検索してみよう！　パオより